

～自ら学ぶ子へ～

## なぜ今が文章題の学び時なのか

年中さんでも年長さんのお子様でも、字を読めて、数を数えられるようになってきたら、1日1題でも構いませんので文章題を解くことをお勧めします。更に小学1年生、2年生、3年生、4年生のお子様には特に文章題学習をお勧めします。1日5分ぐらいからのスタートで大丈夫です。

勉強は計算問題から始めるというご家庭が多いようです。それは「勉強始めは簡単なものの方がよいだろう」や「解説・説明をあまりしなくても済む」などいろいろな理由があると思います。しかし、計算問題と文章問題は同じ“学習”であっても、効果は全く異なります。

文章題を正確に解いていくには、その文章の**場面をイメージする**必要があります。「太郎君は次郎君より背が高い。次郎君は三郎君よりも背が高い。3人の中で1番背が高いのは誰ですか。」という問題が出題されているとします。解答者は、「次郎君より背が高い太郎君がいて、低い方の次郎君よりも更に背が低い三郎君」を想像します。文章題に答えようとするとき、解答者はこのように自分の頭の中でイメージを作って答えを導き出そうとします。文章題には想像が必要なため、文章題を説いていくことで文章をイメージしながら読むというとても大切な力が身についていくのです。一般的な計算問題をただ解いていくだけではこの力は身につけません。

「文章を正確に読み、場面を想像するイメージング力」、これが文章題で身につく力です。そして、この「**文章を正確に読み、場面を想像するイメージング力**」を身につけると、子ども達は計算問題よりも文章題の方が楽しく感じられるようになります。これは小学5、6年生あたりの文章題を苦手とする子ども達とは真逆の感覚と言っていいかもしれません。文章題のシチュエーションがイメージできるから楽しいのです。そして自分で正解にたどり着くことができるようになってくると、楽しさが倍増し、問題を解くスピードも上がってきます。本来**子どもたちの誰もが、考えることや想像することが大好き**なのです。しかし、計算ドリルや漢字ドリルの練習だけを（これはこれでとても大切な学習です。）していくと考えることや想像することをめんどくさがるようになってしまいます。計算や漢字だけを学習の基本と捉えていると、学習の奥深い楽しさに気づけないままに高学年になってしまいます。

現代人は社会に出たら文章を正確に読み取る力を求められます。そしてその文章から状況をイメージし、問題点を見つけ、解決に導いていくことで大きな成果を得ることができます。状況を正確に把握して、現状やその後の未来を思い描いて、その対処法や実現に向けての作戦を作り出す。その力を身に付ける最善の学習が文章題トレーニングです。字や数がわかってきた年中さん年長さんのお子様、だんだんと世界が広がって見えてくる小学生低学年のお子様には**楽しい文章題に出会わせてあげてください**。1日1題でもいいので文章題を解く。お母さんお父さんの作った文章題でも構いません。これは子どもにとっては最高のクイズやパズルです。スポンジのような吸収力と好奇心を持ち、“一緒に何でも楽しみながら取り組める”時期に文章題をお勧めする理由はここにあります。

1日5分で1問。答えが出てこなくても、間違えてもいいではないですか。絵を描いてあげてもいいし、お子さんが絵を描いて答えてもいい。大好きなお母さんお父さんとお子様と一緒に考える文章題。

文章を読んで、情報を整理し、未来をイメージできる子に。

さあ、今日からやってみましょう。**文章題好きは学び好き**です。

むぎ進学教室